

## 平成 30 年度第 1 回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成 30 年 7 月 12 日（木）18 時 30 分～20 時 00 分

会 場：鎌倉市役所第 3 分庁舎 講堂

出席者：＜委 員＞中村会長、中谷副会長、桜井委員、安齊委員、河原委員、  
富田委員、牧田委員、横塚委員

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

福祉総務課長、農水課長、こども支援課長、保育課長、  
高齢者いきいき課担当課長、ごみ減量対策課担当課長、  
教育指導課長、教育センター所長

小学校代表校長、中学校代表校長

事務局（市民健康課）

石黒課長、三島係長、実方係長、長谷川職員、浦山職員、  
齋藤職員

傍聴者：無

配付資料：

【資料 1】平成 29 年度「第 2 期鎌倉食育推進計画」推進に係る取組実績

【資料 2】平成 30 年度「第 3 期鎌倉食育推進計画」推進に係る取組予定

【資料 3】第 3 期鎌倉食育推進計画 概要版（案）

【参考資料 1】かまくら食育カレッジの様子

【参考資料 2】健康づくり通信 第 8 号

【参考資料 3】フードドライブを実施します！

【参考資料 4】ふらっとカフェ鎌倉 2018.7 開催スケジュール NO.15

【参考資料 5】未病センターかまくらの様子

【参考資料 6】栄養サポートステーションの様子

### ■開会

石黒課長から委員 11 人のうち出席者は 8 人で過半数を超えているため、本推進会議条例施行規則第 3 条第 2 項の規定により、会議は成立していること、メタ委員からは欠席連絡を受けたこと、本日の傍聴希望者は無い旨の報告がされた。

鎌倉保健福祉事務所で管内異動があり、有村優子委員から桜井雅子委員への委員変更の報告がされ、桜井委員より挨拶があった。

## 中村会長 挨拶

先週、香港で行われたアジアの会議に出席した。アジアは発展途上の国で医療状態も悪いと思われていたが、議論のほとんどが肥満と生活習慣の話で驚いた。

中国では、十数年前から子どもの半数が肥満で社会問題になっている。一人っ子政策や社会保障制度が不十分なこともあり専門家は危惧していた。現在ではインド、パキスタン及びベトナムなどでも肥満問題が深刻化している。

経済が豊かになり発展すると、どの国でも食の欧米化が進み、肥満・糖尿病の問題が起こる。日本は30年前に直面し、この問題を乗り越えた最初の国であると言われている。

日本の食育基本法は世界に冠たる法律である。最近、食育活動が停滞し始めて心配しているが、今後ますます発展し、世界の人々のモデルになるだろうと考える。

## ■議事

事務局から、以下(1)から(6)の順に説明がなされた。

### (1) 配布資料の確認

事務局から、配付資料【資料1】～【資料3】及び【参考資料1】～【参考資料6】の確認がされた。

### (2) 前回迄の会議内容の振り返り

第3期鎌倉食育推進計画を作成し、平成30年3月に施行した。

【資料1】4つの取組みの柱「食をとおした健康づくり」「食をとおした人づくり」「食でつなぐ地域づくり」「食からはじまる環境づくり」の中から最も当てはまるものに◎を、その他当てはまるもの全てに○を入れた。達成状況については、事業目的・実施回数・参加人数・効果等を考慮し、「よくできた」「だいたいできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で評価している。

### (3) 議題1「平成29年度実績報告及び平成30年度取組み予定について」

まず、平成29年度の実績報告について説明した。平成29年度「第2期鎌倉食育推進計画」推進に係る取組み実績の事業の詳細について次の通り紹介した。

<かまくら食育カレッジについて>

鎌倉女子大学中谷先生と鎌倉ハム富岡商會に協力いただき「鎌倉ハム富岡商會で食育について学ぼう」という講座を実施した。鎌倉ハム富岡商會本社で会議室を借り、中谷先生による食育の考え方や食品表示等についての講義後、鎌倉ハム富岡商會の職員から衛生管理の取組みやハムの作り方について説明があり、最後に工場見学を行った。

参加者からは、食品表示法による表示の見方を詳しく知ることができて良かった、食育の考え方の基本を学べて良かった、などという感想が聞かれた。

<健康づくり通信の朝ごはんについて>

健康づくり計画では、子ども期の重点目標が食生活栄養の分野であることから、年に数回発行している健康づくり通信の中で、簡単にできる朝ごはんメニューを提示した。

<中学校の給食について> 学務課 池田課長から報告

平成29年11月7日からミルク給食から完全給食へ切り替えた。

昨年度の5カ月間の喫食率は72.8%。

学年が下がるほど喫食率が上がる。

今年度の4月及び5月は82.0%と高い。

課題 デリバリー方式のため、量の調整ができない。

<フードドライブについて> ごみ減量対策課 内海課長から報告

3Rのうち、リデュース（発生抑制）に力をいれており、フードドライブについては、平成29年11月から、NPO法人鎌倉リサイクル推進会議主催のイベントと連携して行っている。平成29年度は11月と3月、平成30年度は5月末から6月にかけて、2箇所でもフードドライブを実施。3回で70～80品目、125kg。

市民から、支所等でも受付をしてほしいという意見があるが、衛生上の問題から現在は2箇所としている。

<ふらっとカフェ鎌倉について>

一般社団法人ふらっとカフェ鎌倉が行っている。子どもから大人まで参加できる食堂で、市内の飲食店の休業日を利用して概ね週に一度開催し、参加者が一緒に作ったり、食べたりできる機会となっている。

次に平成30年度の実行予定について説明する。

<重点項目について>

第3期鎌倉食育推進計画では、「食と心身の健康づくりの推進」及び「食の3Rの推進」を掲げている。

【資料2】取組みの柱の一番左側の「食をとおした健康づくり」に◎がついている事業は重点項目の「食と心身の健康づくりの推進」に係る事業とする。また、取組みの柱の一番右側の「食から始める環境づくり」に◎がついている事業のうち、「食に係る放射性物質濃度測定の実施」以外のものを重点項目の「食の3Rの推進」に係る事業とする。

＜未病センターかまくらについて＞

「未病センターかまくら」でのフードモデルの展示について。【参考資料5】参照。

未病センターかまくらでは、健康測定と保健師もしくは栄養士によるアドバイスや情報提供を行っている。1日15人程度が利用する。(現在述べ2,000人が利用)入り口にはフードモデル(食品サンプル)を展示している。通りすがりで見ていく方もいる。健康測定後、食事の改善点の話をする際にフードモデルを見ながら量を確認してもらうこともある。初めは1日3食で2,000キロカロリーになる食事(朝食、昼食、夕食)の展示から始めた。今年度はテーマを変えて、朝ごはんの展示(ご飯バージョン、パンバージョン、シリアルバージョン)、現在はカルシウムがしっかりとれる食事というテーマでの展示を行っている。

また、未病センター設置市では、神奈川県健康支援プログラムとして企業がCSRの一環で行う無料講座のプログラムの利用が可能である。今年度は親子を対象にした、東洋ライスのお米に関する講座や、雪印メグミルクの骨やカルシウムに関する講座を親子対象で実施することで、若い世代の保護者にも未病センターを利用してもらおうと考えている。

併せて、神奈川県立保健福祉大学が実施している「未病を改善する栄養サポートステーション」という事業がある。【参考資料6】参照。これは、採血をせずにできる貧血チェックと、アイパッドを用いた食生活についての問診を行い、その結果に基づいて管理栄養士から食生活に関するアドバイスを行うものである。未病センターをはじめ、県内のスーパーマーケット等でも実施されている。以前は相鉄ローゼンにも協力いただき、店頭での栄養サポートステーションを実施されていたと聞いている。今年度は、乳幼児期の子育て中のお母さんが育児や食事に関する相談を受けられる「抱っこでシャベル」という事業の中で、お母さん、お父さん向けの健康ブースとして、未病センターにある骨密度測定等ができるようにしているので、その中で実施する予定。

＜(仮称)かまくらヘルシーメニューの検討について＞

今年度から(仮称)「かまくらヘルシーメニューの検討」を始める。これは健康経営を進める中で、市内飲食店向けの健康的な食事の認証制度を設け、健康的な食事の普及啓発を行うものである。詳細については、現在検討中だが、野菜の摂取量増加やバランスのとれた食事を取る回数増加につながるような内容にしたいと考えている。

<フードバンクについて>

内容が未確定なので、資料には掲載していない。今年度からフードバンクの助成を始める。フードバンクとは、余っている食べ物を持っている支援者と食べ物を必要としている受益者をつなぐ活動のことをいう。先に紹介したフードドライブで集めた食材を管理し、必要なところに配布していくために、団体に協力してもらい、そこに係る人件費等を補助金として助成してく予定である。

## 【質疑等】

### 牧田委員

資料1の平成29年度の取組実績の達成状況について、横書きで読みにくいため、達成状況には番号のみの記載がわかりやすいのではないかと。

資料2のかまくらヘルシーメニューの検討だが、認証制度が具体的にできたら同業者組合、食品衛生協会などで広めていきたいと思う。

### 中村会長

表現方法は事務局で検討してほしい。認証制度は何か案があるか。

### 石黒課長

学会で出されたスマートミールの基準をベースにしようと考えたが、飲食店にはハードルが高い内容のようだ。確かに健康的な食事普及啓発には寄与するが、厳しくすると広がっていかない。鎌倉市独自のメニューだと広がりがなく、理想を求めれば厳しくなってしまう。カロリー計算が必要になるようでは、一般の飲食店では難しいだろう。お弁当産業等で管理栄養士がいればできるが、それでは市民の方々に普及できない。これにつながる途中段階があれば良いのでは、というのが腹案である。妙案があればお願いしたい。

### 中谷副会長

途中の段階があり、1つのプロセスをクリアした次に、スマートミールがあると良い。

### 中村会長

企業としては、認証制度についてどう思うか。

### 牧田委員

ランクがあると良いと思う。スマートミールのようなゴールがあり、一歩でも二歩でも進めていく姿勢や作る側の配慮があると良いと考える。市内全体の飲食店が取り組めるような形で、保健福祉事務所からもアイデアをだしてもらってやっていくと繋がると思う。

## 桜井委員

健康を気にしない人たちでもできるような状況を作ることが、スマートミールだと思う。ハードルが高くなく、企業の人たちもやってみようかなと、感心をもつようなもので始められると良い。

## 牧田委員

京都の大学の学食で食事をし、驚いたことがある。レジに自分が選んだ食事をもっていくと、足りないものが分かるようになっていた。何が何カロリーというのもあるが、赤、緑、黄色がバランス良くなるように意識できるため、良いと思った。これを利用して、始めたらどうか。

## 中村会長

国が健康な食事の検討委員会を作って、認証制度を盛り込もうとした。「これは健康食事ですよ」とシールを張ろうとしたが、「行政機関が食べ物に差別をつけるのはどうなのか」と、意見があった。「政府がやるのはよくない」と、厚生労働省は施策を諦め、学会が行った。行政が細かいところまで関わることはリスクがある。

もう1つやり方がある。健康な食事や健康な食品をつくろうとしている企業に優秀マークをつけていくなら問題がないと考える。日本人の食事の問題点は明らかで、食塩が多く、カリウム、食物繊維が少ない。目標に対して、努力している企業を認証していくのはそれほど難しくないと思う。

## 石黒課長

健康づくりを進めていく中で、健康経営という考え方を市として推進している。事業所や企業で働いている人の健康づくりもさることながら、CSRで市民の健康にも寄与していく流れをつくっていききたい。認証制度の具体的な内容については、事業所と検討していきたい。

## 中村会長

イギリスで健康的な食事の成功事例がある。オリンピックレガシーという言葉について、ロンドンオリンピックでは“健康な食事”だった。選手村では無農薬で有機農法のものを使用しており、減塩にも気をつけていた。これを機に、イギリス人の食事が変わりはじめた。東京オリンピックでも取り入れたら良いと思う。

フードドライブはうまくいっているか。

## 内海課長

昨年度からはじめて、初回はかなりの量が集まったが、2、3回目は少なかった。フードドライブを実施することによって、食品ロスの削減につなげていきたいと考えている。

**中村会長**

どこから集まるのか。

**内海課長**

市民からの寄付が一番多い。本庁者ごみ減量対策課と笛田リサイクルセンターで受付をしている。支所でできないかと言われるが、衛生管理上、冷蔵庫などの保存設備がないとできない。受付場所を増やすことが今後の課題である。

**中村会長**

食品を管理する人の人件費等はどのように管理しているのか。

**内海課長**

ふらっとカフェ鎌倉が管理している。

**中村会長**

食品衛生はどこか管理しているのか。

**内海課長**

鎌倉保健福祉事務所が管轄である。

**中村会長**

これ以外の取り組みはあるか。

**中谷副会長**

鎌倉女子大学の取組みを紹介させていただく。若宮大路の二の鳥居に、「拭う」という日本手拭いのお店の2階が「nugoo café」と言うカフェになっている。そこで、管理栄養学科の学生が和のスイーツ3品を開発し、提供した。また、地域産業連携プロジェクトの一環である「ほっこりプロジェクト」で、昨年お弁当を包む小風呂敷を3パターンデザインした。今年は表面がガーゼ、裏面がタオルのハンカチを作った。

また、例年通り、年に2回、大船軒とのお弁当のコラボをする予定である。

**中村会長**

腰越漁業組合は何かありますか。

**河原委員**

今年の腰越漁港みなとまつりは、9月30日に予定している。漁港で朝採れた魚の直売、フライを販売、船を使った釣り体験、クルージング及びフリーマーケット等を行う予定。腰越の漁港や鎌倉の海を知ってもらう内容で検討中である。

**中村会長**

他にはどうか。

**牧田委員**

当店では、蒲鉾店で稲村ガ崎小学校及び鎌倉女学院中学校の児童生徒の工場見学を受け入れている。また、深沢高校がインターンシップで工場に入り、職場体験を行った。食に携わる製造の衛生面や蒲鉾の作り方等の話をし、現場をみて

もらった。

#### (4) 議題2「第3期鎌倉食育推進計画の推進方法について」

進捗管理だが、第3期鎌倉食育推進計画では、取組み予定と取組み実績について、市の事業のみを【資料1、2】のような形で取りまとめたいと考えている。また、市以外の事業については、活動実績集のような形で、ホームページ上で紹介していきたいと考えている。

次に推進方法だが、計画期間が3年間にため、推進をしていく上である程度軸を決めておきたいと考えている。

第3期鎌倉食育推進計画の特徴としては、重点項目として「食と心身の健康づくりの推進」「食の3Rの推進」をあげていること、今期から新たに加わった視点である「地域での共食」「和食や行事に合わせた食事、食事マナー」の推進が入ったこと、全計画からの課題として、無関心層（特に青壮年期）にも届くような啓発をすることが上げられる。

これらを踏まえて

- なるべく多くのところで計画の配布をし、読んでもらうこと
- すでに市や地域で行っている取組みを積極的に周知し、参加を促すこと
- 食育事業以外の事業のなかでも食育の計画を配布すること

これらを軸として、3年間の推進を行っていく。

最後に、4月に食育推進会議の委員の方に計画を送付した際にいただいた意見の紹介をした。

##### ・商工会議所 牧田委員

地元の小学校の子どもたちへの工場や店舗訪問の受入れ、蒲鉾についての話、中学校向けの職場体験の受入れをしていただけるとのご意見をいただいた。

##### ・市民委員 横塚委員

65歳以上の1人暮らしの世帯向けに中学校給食が食べられる会を作るとのご提案をいただいた。

#### 【質疑等】

##### 牧田委員

鎌倉は観光客が多いため、働いている人が昼食難民になる。もっと働きやすく、生活しやすくするため、市内在職の人を対象にした社員食堂が4月16日にオープンした。平日のみ営業で、朝600円、昼900円、夜1000円で利用できる。鎌倉の飲食店が、週替わりでメニューを提供している。今後、認証制度やヘルシーメニューが組み込まれると良いと思う。さまざまな飲食店が独自のメニューで展開している。食を通じたコミュニティが形成されている。



人とのつながりというところで、食育推進計画に組み込めたら面白いと思う。

#### **石黒課長**

食堂のオーナーと既に検討を始めている。現在の出店条件は、塩分や野菜の量で制限は設けておらず、なるべく地元の食材を使ってもらい、健康的な食事ということだけである。オーナーがサラダバーを行うとのことだったので、ここで上手くコラボが出来れば良いと考えている。

#### **中村会長**

他に何かあるか。

#### **横塚委員**

中学校給食を食べられる会を作ることについて、突拍子もない話に聞こえるが、高齢になるとさっぱりしたものしか食べなくなるので、たまには中学生が食べているものを食べるのも良いと思った。町内会館にみんなで集まって食べると、認知症予防になるのではないかと考える。近所の人となら集まりやすいし、食中毒を起さない時期を選んでやっても良いのではないか。

#### **富田委員**

民間の保育園はシルバーランチをやっているところがある。中学校に行って、交流をしながら一緒に食べる方が、高齢者が活性化すると思う。

### **(5) 議題3「第3期鎌倉食育推進計画概要版(案)について」**

資料3 第3期鎌倉食育推進計画概要版(案)について説明。概要版は市民、食に関わる団体など多くの方に読んでもらうきっかけになるコンセプトで作成した。表紙はお茶碗と箸の写真を載せた。中を開くと基本理念、目指す姿、取組みの柱の記載がある。取組の柱には重点項目、事業の一例、一人ひとりができること、みんなでできること、コラムがある。最後に計画推進の考え方を記載した。

前回の会議で多く配布した方がよいと意見があった。市でも配布していくが、委員の所属機関でも配布可能ならば、随時事務局に声をかけてほしい。

#### **【質疑等】**

#### **中村会長**

これは案で修正可能か。また、カラーで刷るのか。

#### **事務局**

案なので、修正可能である。カラーで刷る予定。

#### **中谷副会長**

平成32年とあるが、年号が変わるので変更した方が良いのではないか。

## 中村会長

西暦にする等の調整をしてみて欲しい。

### (6) 議題4「その他」

委員の委嘱期間は平成30年8月25日なので、会議への出席は今回が最後になる。次回の会議は平成31年1月頃を予定している。新委員が決まったら日程等連絡する。

## ■感想

今回の会議で委員の任期満了となるため、各委員から感想をいただいた。

## 中谷副会長

様々なことを勉強させていただいた。

特に今回の新しい案については、行政の取り組みが今までに比べ数多く出てきており、今後が益々楽しみである。

## 安齊委員

食育推進計画の「食でつなぐ地域づくり」「農業体験等食にまつわる体験を試みる」の推進のため、平成30年度開催ができなかった親子農業体験を来年度は開催したいと思っている。

## 河原委員

また何か漁業でできることがあれば、行っていきたいと思っている。

## 桜井委員

今日初めて食育推進委員会に参加し、パワーが凄いと感じた。他の地域と鎌倉市は違うなという印象を受けた。今後期待している。また関わりたいと思う。

## 富田委員

私も勉強させていただくことがたくさんあり、とても楽しかった。

鎌倉市内で住んでいて、市内で行っていることなのに知らないことが凄く多かった。本当にいろいろなことを知ることができた。できるだけ、広く皆さんに知っていただくというのが、やはり必要かと思う。これからもできるだけ食育のことについて発信していきたい。

## 牧田委員

私も、いろいろなことをこちらで教えていただいた。

鎌倉はいろいろな方が、「食べる」という共通のことで通して、さまざまに展開していると感じた。

私達は毎日3食食べるが、そこにしっかりと意識を持っている方もいれば、持っていない方もいる。それでも毎日食べている。だから、これだけさまざまな話題も広がるし、関心も出てくる。その中で、少しでも自分自身も食に関わってい

る訳なので、よりよいものを作り上げていけたらというのを感じた。

#### **横塚委員**

色々学ぶことがあった。鎌倉は高齢化率が高く、長生きしていくと介護や、健康を害するリスクが高くなる。それを防ぐのは食だと思うので、これからも市民の健康を考え、頑張っていたらと思う。

#### **■閉会**

#### **中村会長**

閉会の挨拶